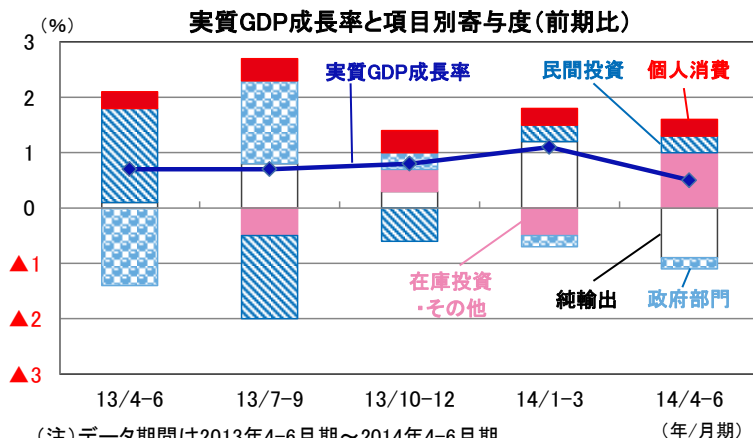


今日のトピック 最近の指標から見る豪州経済(2014年9月) 景気は個人消費に支えられ底堅い推移へ

ポイント1 内需が支え底堅い成長

GDP成長率は市場予想を上回る

- 4-6月期の実質GDP成長率は、前期比+0.5%、前年同期比+3.1%となりました。ブルームバーグ社集計の予想(前期比+0.4%、前年同期比+3.0%)を上回りました。
- 前期比の寄与度を見ると、個人消費と民間投資は、堅調な住宅市場を背景として底堅く推移しました。一方、純輸出(輸出-輸入)は、輸出の減少と輸入の増加により押し下げ要因となりました。



(注) データ期間は2013年4-6月期~2014年4-6月期。

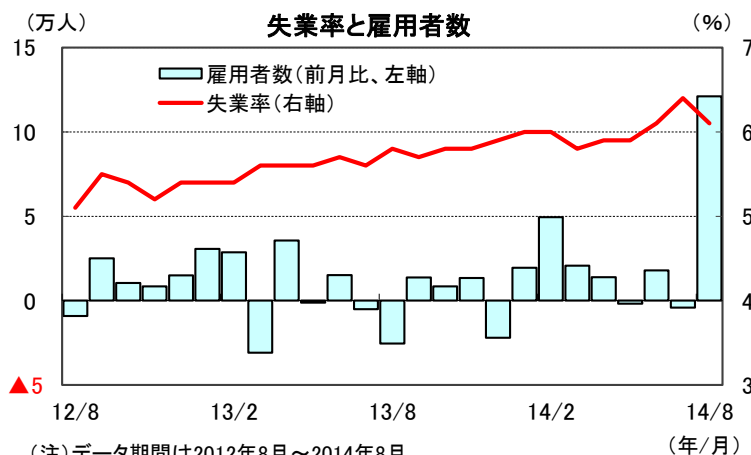
政府部門は消費と投資の合計。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 雇用環境は改善

輸出は日本と中国向けが増加

- 8月の失業率は前月の6.4%から6.1%へ低下しました。雇用者数は前月比+12万1,000人と大幅に増加しました。雇用の改善傾向は続いています。大幅な増加は統計の集計方法の変更なども影響していると見られます。また、7月の小売売上高は前年同月比+5.9%と底堅く推移しました。
- 7月の輸出は、日本と中国向けの増加を主な要因として前月比+1.0%と増加しました。輸出は、中国経済の安定化などから、減速に歯止めがかかりつつあります。



(注) データ期間は2012年8月~2014年8月。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気は個人消費に支えられ底堅く推移する見込み

- GDP成長率は、低金利による住宅投資の拡大や、資産価格の上昇と雇用環境の改善による個人消費の増加に支えられ、年率+3%前後で推移しそうです。
- 豪州準備銀行(中央銀行)は、今後2年間の物価上昇率が年+2~3%で推移すると見えています。物価上昇率は、賃金の上昇率が安定的に推移すると見られることから、緩やかに低下する見込みです。
- 雇用環境の改善が続くと、利上げ観測が強まると見られます。ただし、景気の本格的な回復を前に利上げは難しいと見られることから、政策金利は当面据え置かれそうです。
- 米国の早期利上げ観測の高まりは波乱要因として注意が必要ですが、豪ドルは、相対的な高金利から底堅い推移が見込まれます。

ここも チェック!

2014年09月02日【デイリー No.1,944】オーストラリアの金融政策(2014年9月)

2014年08月22日【デイリー No.1,939】最近の指標から見る豪州経済(2014年8月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。